

砂川市議会 市民の声だより

Vol.9

令和2年2月

◆発行責任者◆

小黒 弘

【連絡先】TEL 52-6968

◆印 刷◆

(有)アド・ワーズ

議会活動報告

一般質問より

3月議会 (平成31年)

市役所庁舎内の禁煙について

市役所庁舎は令和元年7月1日から敷地内全面禁煙となりました。

ふるさと納税返礼品の充実について

砂川市の平成30年度のふるさと納税の寄附額は2億5千万円で、滝川市の場合は7億円を超えたそうです。

砂川市でもまだまだ隠れた逸品もあると思いますので、市内の法人、団体、個人事業者に「広報すながわ」で呼びかけるように話しました。

砂川高校の出願状況について

平成31年の砂川高校の最終出願状況は76名で、このままでは現在の3間口を維持できなくなってしまう可能性が高いです。質問の中で間口減の影響を聞くと教職員数の減員が予想されるところであり、今後、中学校卒業生の進路選択に影響を与えるものと考えます。』と答えています。

市営野球場の利活用について

5億円をかけて改修工事をした市営野球場ですから、おおいに利活用されて、砂川市の明るい材料になるようたくさん誘致してほしいと話しました。

6月議会 (令和元年)

市職員に社会人経験者を採用することについて

市職員に民間の視点や経験をまちづくりに生かしてもらうため、そろそろ一定の社会経験を有した人材を中途採用する制度が必要だと思い聞きました。

この時点で、市長は少し「やる気」を見せましたが、新年度も社会人枠は実現しませんでした。

市営野球場の改修について

私が話したかったのは、5億円かけて大規模改修をした市営野球場が右の写真のような状態で良いのかということです。教育長は『使えるものは使いたい。今後の危険性を判断して対応する』でした。



サビが目立つフェンス

公立高等学校配置計画案について

今年2クラスになってしまった砂川高校の間口数は9月に出来る道教委の公立高等学校配置計画で確定します。

学級数が減れば教員も減り、「普通科単位制」の良さが無くなってしまいます。私は単位制を持続させるの力を含めた抜本的な検討を真剣にする時ではないかと話しました。

9月議会 (令和元年)

市立病院の外来患者を減らさなければならない現状について

(問) 各診療科で外来患者を減らさなければならないのか。

(答) 特に内科、循環器内科、整形外科などは一日平均患者数が100人を超えているので、医師の負担を軽減させたい。

(問) 外来患者を減らすにはどうしようと考えているのか。

(答) 今回は初診料の値上げは考えていない。急性期を脱した方や軽い症状の方などは「かかりつけ医」で受診していただき、手術が必要な方、がんの治療、精密な検査が必要な方などを当院で診ていく方針である。

(問) 市内には「かかりつけ医」の数も診療科も少ないが、市外の医療機関を受診しなければならないのか。

(答) 「かかりつけ医」に逆紹介する場合、中空知医療圏外の方、「かかりつけ医」が多くいる地域の方にご協力をお願いしたい。

砂川市内の方は、市内に診療科が無い場合は『よその街に行ってください』とはならない。



外来待合いロビー

12月議会 (令和元年)

市民活動推進補助金(仮称)について

イベントの開催やボランティア活動の実践、まちづくりのための人材育成など、地域の活性化に取り組む団体に対し、補助金を交付する制度を作るよう聞きました。市長は全くやる気はないようです。砂川市の「市民との協働」は何処に行くのでしょうか。

小中学校の適正規模・適正配置について

教育委員会は8月に「砂川市小中学校適正配置計画検討委員会」を設置しました。

その中で、現在ある小学校5校、中学校2校を小中各1校に統合し、統合小学校は新設、統合中学校は砂川中学校を活用する。

また、小中一貫教育については、「小中一貫型学校」にするか「義務教育学校」にするかなど、かなり突っ込んだ議論を行っています。

たった5回の会議でこれからの砂川の学校教育を決めようとするのは、あまりにも急ぎ過ぎだと思って質問しました。



適正配置計画検討委員会